



# 狩野 繁之 先生 特別講演

## 世界のマラリア制圧を阻む課題

WHOの報告によれば、2017年の世界のマラリア罹患患者数は2億1千900万人、死亡者数は43万5千人。そして2030年までに、世界の罹患患者数・死亡率を(2015年に比べて)90%削減する目標をたてている。ところが、薬剤耐性マラリアの拡散、地球の温暖化、人口移動、貧困など経済格差、などなど生物学的・社会学的な流行制圧課題がグローバルに広がっている。本講演では、世界のマラリアの疫学状況と対策目標、さらには東京オリパラ2020を迎える我が国の診断・治療・予防の最前線を解説する。



国立国際医療研究センター(NCGM)  
熱帯医学・マラリア研究部 部長  
筑波大学連携大学院教授

S61年群馬大学医学部卒、H3年同大学院医学研究科博士課程(寄生虫学専攻)修了。同年4月群馬大学医学部寄生虫学教室助手。講師、助教授を経て、H10年4月に国立国際医療センター(IMCJ)研究所適正技術開発・移転研究部 部長。H11年からは筑波大学連携大学院教授を併任。H22年IMCJは独法化して「国立国際医療研究センター(NCGM)」と名称変更し、研究部名も「熱帯医学・マラリア研究部」と変えた。現在、世界のマラリア対策でGlobal FundのTRPを務める。主な国内所属学会は、日本熱帯医学会(理事長)、日本国際保健医療学会(理事)、日本寄生虫学会(理事)、日本渡航医学会(理事)など。

H30年マヒドン大学の名誉博士号(熱帯医学)を授与される。おもな受賞歴は、「小泉賞(寄生虫学会)」、「日本熱帯医学会賞」、「日本臨床寄生虫学会賞」、「宮崎一郎賞(貝原守一医学振興財団)」など。

令和元年 **9月30日** (月)

時間: **17:30** ~ 18:30

場所: 基礎第1講義室

対象: 学部生、大学院生、教職員

令和元年度 特別講演事業

<お問合せ>

化学教室 酒井宏水(内2262)